

## 保険薬局での服用薬一元管理の普及に向けた子供薬局体験会の活用事例

玉井 臣弥<sup>1)</sup>、谷口 雅洋<sup>2)</sup>、三田寺 美穂<sup>3)</sup>、石黒 貴子<sup>3)</sup>、前田 守<sup>4)</sup>、  
長谷川 佳孝<sup>4)</sup>、月岡良太<sup>4)</sup>、森澤あずさ<sup>4)</sup>、大石美也<sup>4)</sup>

- 1) 株式会社インファーマシーズ アイン薬局 川口北店
- 2) 株式会社インファーマシーズ アイン薬局 行田店
- 3) 株式会社インファーマシーズ
- 4) 株式会社インホールディングス

【目的】服用薬の一元管理(以下、服薬一元管理)は、保険薬局の「かかりつけ機能」発揮において重要であるが、「お薬手帳」や「自己申告」などでの患者からの情報提供が必要不可欠である。そのためにも、まずは保険薬局で服薬一元管理を実施していることを周知する必要があるが、2018年に当社が開催した子供薬局体験会においては、参加した保護者の33.3%しか認識されていなかった(日本薬学会第139年会にて発表)。そこで、服薬一元管理への認識を促すべく、これを題材とした子供薬局体験会を実施した。

【方法】2019年7、9月にアイン薬局行田店にて小学生28名を対象に子供薬局体験会を開催した。模擬処方箋と疑似薬(菓子類)を用いた水剤、散剤等の調製と鑑査、投薬のほか、一包化の鑑査と服薬ボックスによる薬の整理や管理を実施した。保護者23名には服薬一元管理の重要性について説明し、体験会前後でアンケートを実施した。主な項目は「薬局機能の認知」「服薬一元管理の認知」「薬についての相談先」とした。

【結果】21名から有効回答を得た。体験会を経て、保護者の薬局機能への認知は、「自宅の残薬調整」が28.6%から61.9%へ、「複数病院の薬を整理する」は9.5%から90.5%へ増加した。また、薬について薬局に相談した経験は19.0%しかなかったが、体験会後は95.2%が「相談したい」と回答した。「他薬局の薬も整理できること」については、体験会前は誰も認識していなかったが、体験会を通して全員が認識した。

【考察】服薬一元管理に関する内容を盛り込んだ子供薬局体験会は、服薬一元管理への保護者の理解を深めるだけでなく、薬に関する相談窓口として薬局を認識することにつながることを示唆された。今後もさまざまな薬局機能を盛り込んだ子供薬局体験会を開催し、地域住民へ薬局機能を周知し、地域医療に貢献していきたい。

(日本薬学会第141年会(2021年3月、広島)にて発表)